

石西礁湖自然再生マスタープラン（案）

前文

(新・生物多様性国家戦略と自然再生)

「自然と共生する社会」を政府一体となって実現していくためのトータルプランとして「新・生物多様性国家戦略」が 2002 年 3 月に策定されました。この中で今後進めていくべき方向として、「保全の強化」、「持続可能な利用」とあわせて「自然再生」が掲げられています。

「自然再生」とは、現状を維持していくための保全だけでなく、損なわれた自然を地域特性に応じて積極的に取り戻そうとするもので、自然の回復力、自然自らの再生プロセスを人間が手助けする形での自然の再生、修復を進めることとしています。

石垣島と西表島の間広がる海域は、石西礁湖と呼ばれ、わが国では珍しい準裾礁型のサンゴ礁が発達しており、我が国を代表するサンゴ礁生態系として 1972 年に西表国立公園に指定されています。また、国際的にも重要なサンゴ礁生態系であり、漁業や観光など地域経済にも大きな役割を果たしています。

しかしながら、赤土の流出などの陸域からの環境負荷、高水温による白化、オニヒトデの大量発生等によりサンゴ礁生態系は大規模な影響を受け、国立公園指定時に比べ大きく衰退しているのが現状です。

このため、優れたサンゴ礁については保全を図るとともに、海域及び陸域の環境改善をはかり、サンゴ群集修復事業を行うなどサンゴ礁生態系の自然再生を進めていく必要があります。

(石西礁湖自然再生マスタープランの性格、役割)

石西礁湖自然再生マスタープランは、石西礁湖及びその周辺海域(石垣市及び竹富町に属する島の周辺海域)のサンゴ礁を、持続可能な利用を図りながら円滑かつ効果的に保全・再生を推進することを目的としています。

マスタープランの作成にあたっては、石西礁湖及びその周辺地域について生態系の観点から詳細な調査を実施し、これらの調査結果をもとに、石西礁湖地区自然再生推進調査専門委員会の知見を踏まえて、関係行政機関、専門家、NGO、漁業関係者、観光業関係者、地域住民等の広範な関係者が連携し、きめ細かな再生手法及び管理手法を検討しました。

また、サンゴ礁生態系は、海域のみならず陸域の利用、サンゴ礁に囲まれた島に暮らす人々の生活に大きく左右されています。このため、自然再生マスタープランは、多くの関係者の総意と主体的参画のもとに、各種の取組みをより効果的に促進する計画、すなわち石西礁湖とその周辺地域の総合的な管理計画となるよう、関係者間の十分な意見交換を通じて合意形成を行ってとりまとめ、関係行政機関の施策や計

画、NGO等が実施する様々な取組みが盛り込まれ、連携が図られる内容となっています。すなわち、このマスタープランの実施主体は関係行政機関だけではなく、サンゴ礁に囲まれた島に暮らす私たちひとりひとりなのです。

マスタープランは将来の自然、社会状況の変化、取組みの進捗状況等を踏まえ、柔軟な見直しを行っていきます。

（石西礁湖自然再生マスタープランの構成）

本マスタープランは5部構成からなっています。第1部では、基本的認識として石西礁湖及びその周辺海域のサンゴ礁生態系の現状分析、危機の構造を明らかにし、第2部ではサンゴ礁生態系の保全及び持続可能な利用を進めていく上での理念と目標を示しています。また、第3部では、施策の基本的方向と基本的視点、また、個別テーマごとの施策の展開について示しています。第4部では、第3部の基本方針に基づく行われる各主体の施策にふれ、最後の第5部では実行体制と各主体の連携、各種計画との連携、マスタープランの点検と見直しにふれ、マスタープランの効果的実施が図られるための必要な方策を示しています。